

令和4年度 第2回 東京都北区おたがいさま地域創生会議 次第

令和5年3月23日(木) 午後3時30分～
北とびあ 7F 第一研修室

I 開 会

II 委員紹介

III 議 題

1. 高齢者あんしんセンターにおける活動状況
 - (1) 令和4年度 地域ケア個別会議 開催状況について

 - (2) 令和4年度 3圏域地域包括ケア連絡会報告について

2. 第1層生活支援コーディネーター活動状況
 - (1) 令和4年度 第1層生活支援コーディネーターの活動報告について

3. その他

IV 閉 会

- | | |
|-------|----------------------------|
| 資料1 | 委員名簿 |
| 資料2 | 東京都北区おたがいさま地域創生会議設置要綱 |
| 資料3 | 令和4年度 地域ケア個別会議開催状況について |
| 資料4 | 令和4年度 3圏域地域包括ケア連絡会の報告について |
| 資料4-1 | 王子圏域地域包括ケア連絡会報告 |
| 資料4-2 | 赤羽圏域地域包括ケア連絡会報告 |
| 資料4-3 | 滝野川圏域地域包括ケア連絡会報告 |
| 資料5 | 令和4年度 第1層生活支援コーディネーターの活動報告 |

東京都北区おたがいさま地域創生会議委員

氏 名	備 考
藤原 佳典	学識経験者（東京都健康長寿医療センター研究所 部長）
碓井 亘	東京都北区医師会代表
前田 茂	東京都北歯科医師会代表
小川 孝	町会・自治会代表
荒川 正代	民生委員・児童委員代表
平井 孝明	地域活動（ボランティア）団体代表
小松 栄美子	商店街連合会代表
大場 栄作	介護サービス事業者代表
卜部 吉文	介護予防事業者代表
熊木 慶子	地域包括支援センター（生活支援コーディネーター）代表
小原 宗一	社会福祉協議会（地区担当者・生活支援コーディネーター）
長久保 雄司	シルバー人材センター事務局長
村野 重成	福祉部長
前田 秀雄	健康部参事（地域保健担当）
藤野 浩史	まちづくり部長

【事務局】

高齢福祉課長	岩田 直子	地域福祉課長	長嶋 和宏
長寿支援課長	滝澤 麻子	介護保険課長	新井 好子
地域医療連携推進担当課長	藤野 ユキ		

28北福高第2771号
平成29年3月13日区長決裁

(設置)

第1条 高齢者、介護者及びその家族等が住み慣れた地域で安心して、自分らしい生活が続けることができるよう、地域包括ケアシステムを構築するため、介護保険法（平成9年法律第123号。以下「法」という。）第115条の48第1項に規定する会議（地域ケア推進会議）及び法第115条の45第2項第5号に規定する事業を推進するための会議（協議体）として、東京都北区おたがいさま地域創生会議（以下「創生会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 創生会議の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 地域の情報共有及び連携強化の構築に関すること。
- (2) 地域課題の発見及び解決に関すること。
- (3) 地域の社会資源の集約及び活用に関すること。
- (4) 生活支援体制整備のためのサービス資源の開発、人材育成及び人材確保に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、区長が必要と認めること。

2 創生会議で協議された事項は、必要に応じ区長に提言することができる。

(委員の構成)

第3条 創生会議は、区長が委嘱又は任命する委員をもって組織し、委員の構成は、別表のとおりとする。

(任期)

第4条 委員の任期は、前条の委嘱若しくは任命の日から3年を経過する日まで又は東京都北区介護保険条例（平成12年3月東京都北区条例第12号）第14条に規定する運営協議会の委員としての任期が満了する日のいずれか早い日までとする。ただし、任期中に別表の委員の職を離れたときは、委員の職を失うものとする。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員の再任は、妨げないものとする。

(会長及び副会長)

第5条 創生会議に会長及び副会長をそれぞれ1人置く。

2 会長は委員の互選によってこれを定め、副会長は委員のうち会長が指名する。

3 会長は、創生会議を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(招集)

第6条 創生会議は、会長が招集し、会長は、会議の議長となる。

2 創生会議は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 創生会議の庶務は、福祉部高齢福祉課が処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、会長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成29年3月13日から施行する。

付 則 (令和4年3月3日副区長専決3北福高第2686号)

この要綱は、令和4年4月1日から適用する。

別 表（第3条関係）

医師代表

歯科医師代表

学識経験者

町会・自治会代表

民生・児童委員代表

地域活動（ボランティア）団体代表

商店街連合会代表

介護サービス事業者代表

介護予防事業者代表

社会福祉協議会（地区担当者・生活支援コーディネーター）

地域包括支援センター（生活支援コーディネーター）代表

シルバー人材センター事務局長

福祉部長

健康部参事（地域保健担当）

まちづくり部長

令和4年度 地域ケア個別会議 開催状況について

「地域ケア個別会議」は、多職種協働により、①個別ケースの支援内容、②自立支援に資するケアマネジメントの支援や支援ネットワーク構築、③地域課題について、把握・検討を行う会議である。

個別会議で把握された地域課題は、高齢者あんしんセンターの活動の中で把握した課題と合わせ、日常生活圏域における共通課題として課題解決に向けた検討につなげる。

現在、2種類の地域ケア個別会議を開催している。

(1) 地域ケア個別会議

1事例について60～90分、地域住民も参加し検討を行うもの。

各高齢者あんしんセンターで2事例以上取り組むこととしている。

※今年度は介護予防のための地域ケア個別会議を全高齢者あんしんセンターが関与して試行したため、通常のものとは介護予防のための個別会議を合わせて2事例以上実施とした。

(2) 介護予防のための地域ケア個別会議（試行）

1事例45分で多職種専門職で検討を行うもの。

- ・概要：対象者の「できること」「したいこと」、暮らす地域の活動やサポートなどの情報に着目して、「自立」「介護予防」について多職種で検討を行う。
- ・検討事例：要支援認定者・事業対象者 14事例（7圏域で2事例ずつ）
- ・事例の提供：居宅介護支援事業所および高齢者あんしんセンターのケアマネジャー
- ・助言者：事例の状況をふまえ、専門職に参加を依頼した。
（主任ケアマネジャー、理学療法士、管理栄養士、訪問看護師）
- ・今後の予定：令和5年度前半で本格実施に向け、マニュアル整備、高齢者あんしんセンターおよび関係団体に周知、協力を依頼したい。

① 開催実績（全体）

	令和4年度 (4～2月末)	令和3年度	令和2年度	平成31年度
件数	28 (うち介護予防 14)	29 (うち介護予防 6)	16	28

※令和4年度 開催状況

3事例実施：飛鳥晴山苑、新町光陽苑

2事例実施：豊島、王子光照苑、浮間、赤羽北、赤羽、みずべの苑、西が丘園、
滝野川はくちょう

3月に2事例目実施予定：十条、十条台、滝野川西

1事例実施：東十条・神谷、桐ヶ丘やまぶき荘、昭和町・堀船

② 事例の世帯状況、認知症の有無（令和4年度28事例中）

世帯状況	対象者数	認知症の有無	
		あり	なし
独居	19	6	13
高齢者のみ世帯	6	1	5
子どもの同居	2	1	1
配偶者、子どもの同居	1	0	1

③ 参加者数 計142人

④ 会議で出た課題と今後の方向性

	課題	今後の方向性
地域ケア個別会議・介護予防のための地域ケア個別会議	認知症や疾患により意思表示が難しい人の支援。	本人の希望する生活について、本人、関係者で話し合い、言語化し、今後の支援を考えられるようにする。
	急階段、エレベーターがない2階（以上）に居住し機能低下により外出機会が激減。 独居高齢者の救急時、災害時の対応。	災害時の避難支援や救急時の対応の話の聴き取りから家族、地域の関係者へつないでいく。救急医療キット、避難行動要支援者名簿登録などのツールをきっかけとする。
	独居高齢者と地域のコミュニティがつながりにくい。 住宅の建て替えや住民の世代交代が進み、近隣との関係が希薄な人が多い。	気軽に立ち寄れる場があるとよい。 住民がどのようなことで困っているのかの把握、地域に情報が行き届くような体制づくり。 地域の団体等の情報を共有できる機会やツールをもつ。
	町会・自治会の構成員が高齢者し担い手が減少、活動も縮小。 町会会館老朽化。 反面、80歳を超えても健康で様々な地域活動に参加するなど支え手として活動している高齢者もいる。	「好きなこと」「得意なこと」がある高齢者の活動を実現できるよう町会・自治会等と考えていく。地域の大学に協力を提案する。
	地域とケアマネジャーの情報交換の場がない。どこまで相談できるのかわからずお互いの顔がみえにくい。	民生委員、ケアマネジャーとの顔合わせと情報交換の場として地域包括ケア連絡会を開催。 相互の役割について理解を深める。
	要介護状態のため外出が困難。 話をすることは好き。	自宅で話をできる環境づくり。 傾聴ボランティアとの関係づくり。
	成年後見制度の審判がおりるまでの書類や金銭管理等支援。	既にある制度では対応できないか。
	オートロック式マンションに居住。本人が応答・解錠しないと日時が決まったサービスや支援を利用できない。	

	課題	今後の方向性
介護予防のための地域ケア個別会議	70歳以下の高齢者： <ul style="list-style-type: none"> 介護保険サービスへの抵抗感がある。（もっと高齢の人が通う場所というイメージが強い） 同年代の人と交流できる場が少ない。機能が回復したらなにか仕事をしたい。 社会とつながってほしい思いが強くある。 	<p>介護保険サービス以外の参加の場の発掘・創出。</p> <p>趣味活動等の場へのつなぎ</p> <p>体力・筋力維持につながる運動習慣および食習慣の定着</p>
	外出に不安を抱え自信をなくしている本人の気持ちのサポート。	<p>リハビリ職のアセスメントを入れ、生活環境の見直し。</p> <p>通所リハビリ、地域活動、買い物等の活動の可視化でモチベーションの維持を支援する。</p> <p>障害受容の過程に寄りそう。</p>
	仕事をしたい、〇〇神社までお参りに行きたいという希望はあるが、現在の心身状況とのギャップが大きい。	<p>目標をスモールステップにする。</p> <p>身近なところでその人の力を活かせる活動の場づくり。</p>
	坂道が多い地域。 歩ける距離にスーパーがない。	<p>歩行距離が伸びるような働きかけ。（支援者間の目標達成に向けた方向性を合わせる）</p> <p>移動販売車の検討。</p>
	外食を楽しみにしているが、疾患の悪化が懸念される。 治療食や高齢者用の食事を提供する店がない。 機能的食品の活用。	<p>摂取エネルギーに見合う活動量の増加。</p> <p>食堂マップを包括と作成。</p> <p>万歩計を利用し、記録し活動の見える化で動機づけ。</p> <p>コンビニなどに健康的な調理品や食品の選び方のポスターが掲示されるとよい。</p>

令和4年度 3圏域の地域包括ケア連絡会 報告

1. 王子圏域地域包括ケア連絡会

日時：令和4年10月19日（水）14時～15時30分 会場：北とぴあ飛鳥ホール 参加者：34名（町会自治会、民生委員、自主グループ等）

テーマ：『地域のつながりの大切さ PartⅢ ～孤立をささえるコツ～』

内容：地域の中にはつながりを持つことに抵抗があったり、きっかけがなく孤立しがちな方もいる。孤立して専門職も介入できないAさんの事例を通して、そのような方に自分なら何ができるか、地域で支えるならどうしたらいいか等をグループで話し合いを行った。

結果：本人の拒否がある男性への介入は難しいとしながらも、「本人の趣味やなにかとっかかりを考えて関係づくりを」「自分達だけでは介入が難しいが、少しでも包括に情報を橋渡しできるよう情報収集を行う」など体験に基づく意見が多数出てきた。今後は各包括ごとに報告書を地域へお渡しし、小地域でさらに話し合いを深めていくきっかけづくりにしていく予定。



2. 赤羽圏域地域包括ケア連絡会

日時：令和4年12月10日（土）10時～11時30分 会場：赤羽会館大ホール 参加者：34名（任意団体、シニアクラブ、東洋大学生等）

テーマ：『地域のつながりを広げよう』 ～ 知ることから始まる『縁』 ～

内容：昨年度任意団体と学生とのマッチングをしようと「お見合い大作戦」と称してお互いを紹介しあう機会を作ったが、その後の展開につなげることまでは難しかった。1年通して学生たちとコンタクトを取り、一緒に作り上げた「活動紹介シート」を紹介。任意団体と学生とも意見交換を行った。

結果：「学生がサロンにボランティアに行く」という一方的な関係ではなく、おたがい行き来をしてコミュニケーションを深めていくことが、自然な流れでボランティアにつながるのでは。令和5年目は仕組みづくりも含めて、さらに検討を続けていく予定。



3. 滝野川圏域地域包括ケア連絡会

日時：令和4年11月9日（水）14時～15時15分 会場：北とぴあ1601会議室 参加者：34名（町会自治会、民生委員、介護支援専門員等）

テーマ：『その人らしい地域とのつながりを見つけよう』

内容：滝野川圏域で今までの地域ケア個別会議で取り上げられた事例を見返す中で、介護サービスの是非に問わず介護保険だけでは補えない、地域ならではの見守りやつながりの重要性が見えてきた。日常でのさりげない事例をもとに、地域のつながりや、自分たちができそうな見守りについてグループワークを行った。

結果：自分たちで行っている見守りや「ちょっとした工夫でできそうなこと」を共有。フォーマルインフォーマルの垣根を超え、協力できることの共有や、普段あまりつながりのない障がい団体やおたがいさまネットワーク協力店ともつながる機会となった。



令和4年度 王子圏域地域包括ケア連絡会 報告書

地域のつながりの大切さ PartⅢ ～孤立をささえるコツ～

王子光照苑高齢者あんしんセンター
豊島高齢者あんしんセンター
十条高齢者あんしんセンター
東十条・神谷高齢者あんしんセンター
昭和町・堀船高齢者あんしんセンター
十条台高齢者あんしんセンター

協力：北区社会福祉協議会
第1層 生活支援コーディネーター

これまでの王子圏地域包括ケア連絡会のテーマ

令和2年度

地域のつながりの大切さパートⅠ

～コロナに負けない地域づくり～

コロナ禍、高齢者が地域とつながることがいかに大切か。



令和3年度

地域のつながりの大切さパートⅡ

～小さな活動から元気を～


更に困難な状況が続く中、どうやって活動を維持し困難をのりこえられて来たのか。



コロナの影響で活動が制限される中でも、地域の人々のつながりの大切さがわかるからこそ工夫しながら活動を続けてきた

その一方で、自ら人との接点を持たず生活している高齢者もいる

- どのようにすれば孤立することなく住み慣れた地域で暮らし続けることができるか？
- どのように人はつながっていくのか？
- 孤立しそうな人をどのように支えていくか？



令和4年度のテーマは 地域のつながりの大切さPartⅢ ～孤立をささえるコツ～

- 【開催日】令和5年10月19日（水）
- 【会場】北とぴあ 飛鳥ホール
- 【参加者】34名
- 【内容】①孤立化防止の動画上映
②グループワーク
③事例紹介
④グループワーク

①孤立化防止の動画上映

高齢者が孤立することなく、周りから必要な支援を受けながら安心して暮らしていけるよう、地域における声かけや見守りなどの支え合い活動の大切さを訴える動画を上映。

高齢者孤立化防止活動

千葉SSK（しない、させない、孤立化）プロジェクト



②グループワークでの意見

動画上映後の意見交換

- ・ごみ捨て等、あいさつ、声掛けから始まる。
- ・グループにさそってもらえると良い。声をかけてくれる人がいるとやってみようと思う。
- ・(自主グループ) 中心になる人が必要。負担はかかるが負けずにやっている。
- ・困ったときに、町会長に相談している。
- ・周囲、近所の人々の目が様々な発見がある。
- ・見守る人を決めている。本人からの了承を得て行っている。
- ・つながりが大切だと感じている。
- ・隣人や家族のつながりも大事に思う。 (原文ママ)



③事例紹介

- ・ 自主グループの立ち上げ事例
- ・ 人付き合いが苦手な方が地域に溶け込んでいく事例
- ・ サービスの利用を拒否しているAさんの事例

④グループワークでの意見

Aさんに対し自分なら何ができるか、地域で支えるにはどうしたらよいか意見交換。

- ・ 孤立を防ぐには声かけから始めるしかない。
できることは『あきらめないこと』。
拒否されてもとにかく簡単なあいさつ程度の声かけでもよいので、あきらめずに声かけをしていくことから始めていくしかない。
- ・ 男性のプライドを傷つけないように、さりげなくそっと見守っている。
昔していた仕事の話などで気分良くしてもらいつながる。
- ・ 近所の方や町会がそっと見守っていく。仲良くなっていくことが必要。小さな気づきが必要。



アンケート結果

(感想)

- ・ 色々な分野の方が、参加していらっしゃりその分野のお話はとても参考になった。
- ・ 初めての参加でしたが、皆さん率直に話され新鮮な気持ちで参加させていただきました。
- ・ 地域包括支援センターの重要性、これからますます住民に声かけしてほしい。
- ・ 映画も事例報告、グループ話し合いなど大変良かった。
- ・ 今後の活動に役立てたい。
- ・ これからもつなげていきたい。
- ・ もっとあんしんセンターが身近に感じられるようになると思います。
- ・ 充実した内容でとても参考になりました。

(改善点)

- ・ 全班の発表を聞きたかった。
- ・ 内容、テーマは良いと思います。時間が短かったのは残念です。
- ・ グループで話し合う時間をもう少し長くした方が話が深められたと思う。

(原文ママ)

生活支援コーディネーターとして

昨年度に引き続き、地域のつながりの大切さについて改めて意義のあることだと強く感じました。

誰ともかかわらずに暮らし続ける高齢者もいますが、挨拶などの声かけや高齢者を見守る地域の協力、そして拒否をされてもあきらめない熱い思いがあるからこそ、住み慣れた地域の中で高齢者が暮らし続けることができるのではないかと思います。

私たちは『高齢者あんしんセンター』の生活支援コーディネーターとして今回のような事例を通して、地域の皆様と話し合う機会を設けることで、高齢者が安心して暮らせるまちづくりを各地域で目指してまいります。今後とも生活支援コーディネーターを活用してください。

令和5年3月23日(木)
令和4年度 おたがいさま地域創生会議

資料4-2

令和4年度 赤羽圏域 地域包括ケア連絡会

東十条・神谷高齢者あんしんセンター
西が丘園高齢者あんしんセンター
みずべの苑高齢者あんしんセンター
赤羽高齢者あんしんセンター
赤羽北高齢者あんしんセンター
浮間高齢者あんしんセンター
桐ヶ丘やまぶき荘高齢者あんしんセンター

協力：北区社会福祉協議会
第1層 生活支援コーディネーター

昨年度は担い手として東洋大学生に地域活動に参加してもらうため、学生と活動団体をつなぐ目的で地域包括ケア連絡会で「お見合い大作戦」を開催



継続的な結びつきには 至らなかった



学生に知ってもらうために・・・ 学生を知るために・・・

大学の授業に参加してのプレゼン

- ★北区・赤羽圏域の概要と地域課題
- ★昨年の「お見合い大作戦」の内容
- ★地域活動で学生に担ってほしい事



オンライン会議による学生との 意見交換

- ★どうしたら参加しやすいか？
- ★参加するのに重視していることは？



学生の本音を聴きました！

●初めてのところに参加するのはハードルが高い

- ⇒ ・参加している学生の声を聴きたい
・先生から紹介だと安心して参加できる

●「就活」に生かせるか、時間や場所などが参加しやすいか知りたい

- ⇒ ・どんな人がどんな活動をしていて勉強になるかを知りたい
・活動内容がわかるチラシや動画などがあるとわかりやすい

●自分から電話やメールをすることはしない

- ⇒ ・ラインなどで簡単にアクセスしたい

そこで私たちは考えた？！

学生とつながりやすくなるために
LINEグループの作成

『赤羽つながろう
プロジェクトチーム』



学生が参加しやすいように
活動日や場所、かかわって
いる人、参加するメリット
など一覧で表示！
活動内容もチラシや動画で
見られてわかりやすい！

『活動紹介シート』

活動紹介シート

分野	エリア	活動曜日	活動時間	活動名	内容(求めているボランティア)	関わっている人	メリット	紹介動画/画像/チラシ	担当者名	連絡先	備考(住所、行き方、時間)	リアクションお気に入り	リアクションの閲覧
高齢	浮間	木	午後	うきうきサロン	高齢者と一緒に脳トレをしてくれる人	包括職員(社会福祉士)、地域のボランティア団体	包括主催のサロンが体験できる	3cU3nz8rvN12qaF11waXv	浮間高齢者あんしんセンター 早船(ハヤフネ)	03-3558-3689 ukuma@tfjk.or.jp	(北区浮間2-10-2) 埼京線北赤羽駅・浮間	ts/0/1aaCYU	LQo2XkUqfT93GthfQSVjwz6nDgd
その他	岩淵町	水	午前	朝活『しゅりる』	受付などの対応、道具の準備など、また会の間は高齢者や子供達と一緒にお話をしたり、体操をしたり、ゲームをしてくれる人	包括職員(社会福祉士)、ボランティア団体、近隣保育園、地域貢献事業をしている企業、学生ボランティア	多様な職種や立場の人が関わっており、連携やネットワーク構築の様子が体感できます。高齢者から近隣保育園児、ボランティアの大学生もいて、多世代交流も行っています。	https://drive.google.com/file/d/1FicZL8QZjzpkjyUQ876BfMv/view?usp=sharing	地域共生舎HIDEN 濱田 赤羽高齢者あんしんセンター 佐藤	temple.syuri@gmail.com uraraakabane@uraranext.com https://twitter.com/akabanehoukatu?ref=Fr1QypB711c7cAx8z14QA&s=03	場所：正光寺 北区岩淵町32-11 南北線 赤羽岩淵駅より徒歩3分/赤羽駅からも徒歩で行ける距離です。	https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSc6DRmxkvcCO8XWk3XJLHmy-OAV1CbJsSBPstTMRlUU-anq/viewform?usp=cf-link	https://docs.google.com/spreadsheets/d/1LleEUTKVyyP3NldQEmMlz9Jf7f93ml1j6jRnPxcl/edit?usp=sharing
高齢	赤羽	第1・3・4火	午後	みんなが主役の自主サロン『ちゃお』	サロンのプログラムを一緒に考えてくれる方、サロンを一緒に盛り上げてくれる方、ZOOMでの参加も大歓迎!!	包括職員(社会福祉士等)、地域内店舗、地域活動団体	地域内の店舗と連携して開催しています。地域とのつながり、通期づくりの一端を垣間見ることが出来ます。	ve.google.com/file/d/1RnDbqt08xjhVHNUL10zlrHqjQRvS2jmg/vi	赤羽高齢者あんしんセンター 佐藤	03-3903-4167 uraraakabane@uraranext.com https://twitter.com/akabanehoukatu?ref=Fr1QypB711c7cAx8z14QA&s=03	場所：ソーシャルコミュニティめぐりや赤羽2-4-14 蛇の目赤羽ビル1階 赤羽駅から徒歩5分程度のララガーデン(商店街)内にある店舗が会場です。	https://forms.gle/j1AumT4QfDxv8pme9	https://docs.google.com/spreadsheets/d/116xyM55iqHhhW9vio572djosrmdxTUDEORmhv7FnVQ/edit?usp=cf-link
高齢	赤羽	未定		なんでもサロン	大きな会場の色々な趣味活動が出来るサロン活動を検討しています。	包括職員(社会福祉士等)、地域ボランティア、地域活動団体	新規サロンの立ち上げです。企画の検討会から参加いただけて、サロンの立ち上げから運営まで関わっていただけます。	ve.google.com/file/d/1fIdG0m0sivATbJqmuayEiC2or6pJz9ff/view?usp=sharing	赤羽高齢者あんしんセンター 佐藤	03-3903-4167 uraraakabane@uraranext.com https://twitter.com/akabanehoukatu?ref=Fr1QypB711c7cAx8z14QA&s=03	会場は赤羽駅から徒歩5分程度の赤羽会館です。アクセスは便利です。	https://forms.gle/4Vc3GNb5hmBHwo86	https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Dbdi15YNhgoUadQ9eF6rZsHdhDI5cYCVFuhRILARQ/edit?usp=cf-link
障害	赤羽北	第2火	午前	デブ絆の会(聴覚障害の方のサロン)	受付、会場準備、ゲームの補助等	包括職員、地域ボランティア	包括主催のサロンで聴覚障害の方との交流ができ、手話の勉強もできる	MRaBNcRbMxoTQeBGqg	赤羽北高齢者あんしんセンター 渡邊	03-5948-5940 akakita1@jcom.zaq.ne.jp	北赤羽駅 埼京線	AtPGLSE0VYMeOIGElLVDOXkaFe5x9jixE5x5qL8GeeU7UjwQw	ts/d/1lx5jbszdUf8m710gTEgWKSwJpU0BlcmzJ1



地域のつながりを広げよう

～知ることから始まる ^{EN}縁～

開催日時：令和4年12月10日（土）
10時00分～11時30分

会場：赤羽会館4階大ホール



東洋大学生と赤羽圏域の地域活動をつなげよう 計画2年目



参加団体	13団体
	20名
学生	13名
先生	1名
計	34名

6グループに分かれて
グループワークを開催

特技一覧

私はこれが得意です！

IT関係

パソコンでチラシ作り
インスタ
スマホの操作
動画作成、編集
SNS
ホームページ作成
デザイン
パソコン
プログラミング
SNSアカウントの運営

音楽関係

歌うこと
音楽
ピアノ
楽器を用いて交流
ギター
お琴
ドラム
和太鼓
カラオケ
楽器演奏
トロンボーン
フルート
ハンドベル

運動関係

水泳
テニス
バドミントン
散歩
ランニング
バスケ
縄跳び
卓球
ボウリング
バレーボール
ダンス
エアロビ
剣道
ヨガ
ストレッチ
ダイビング
サッカー
バレエ
野球
スキー
登山
フィギュアスケート
フットサル

その他

書道
絵を描く
イラストを描く
塗り絵

映画鑑賞
読書
韓国ドラマ
野球観戦
アニメ

ものづくり
折り紙

一眼レフで写真

茶道

お菓子作り
英語
韓国語

ゲーム
謎解き
百人一首
囲碁
将棋

手話
点字
ボランティア活動

料理
魚を捌く
パン作り
お菓子作り

釣り
キャンプ
バイク
旅行の計画

南京玉すだれ

ネイル
メイク

デザインやアイデアを調べること(部屋、絵、食べ物、工作等)
ポスターやポップに使えそうな目立つ字を書く
体を動かす、力仕事

グループワークで出た意見

- 地域の人も大学や学生寮を訪問してお互いを知りあうことが大切
⇒東洋大学国際寮を見学
- 学生もボランティアとして突然参加することには抵抗がある。地域の運動会やイベントと一緒に参加し楽しむことで距離を近づけることができるのでは…。
- 寮生は生活の場として赤羽圏域になじみがあるが、区外からの通学者はなじみがない。もっと地域の情報や歴史など知ってもらう必要がある。
- 寮に住む外国籍の学生は「日本文化」に興味がある。

大学の先生からのご意見

- 学生が地域活動に参加してもらおうキーワードは・・・
「自由」「気軽さ」「楽しさ」「継続的な参加を求めない」
- 学生は地域活動で「何を学びたいか」「何を得られるか」目的意識を持つことが大切
- 地域の方は、「来てくれるだけでうれしい」だけでなく、学生に役割を与え、人生の先輩として学生を育ててほしい
- 継続的に学生が地域に出ていくには、「人材バンク」的な仕組みが必要ではないか

今後の課題

- 東洋大学生と地域の人がともに参加できるイベントの企画、実行
- SNSを含め、学生に情報を伝える手段のブラッシュアップ
- その時々学生との関係が築くことができても、卒業すると関係が継続しない
継続的に学生が地域に参加できる仕組みの構築が必要

令和5年3月23日(木)
令和4年度おたがいさま地域創生会議

資料4-3

令和4年度 滝野川圏域地域包括ケア連絡会

令和4年11月9日(水)開催



滝野川西高齢者あんしんセンター 高山 泰明
飛鳥晴山苑高齢者あんしんセンター 武居 恵美子
滝野川はくちょう高齢者あんしんセンター 大西 洋
昭和町・堀船高齢者あんしんセンター 橋本 あゆみ
新町光陽苑あんしんセンター 高木 いづみ

協力:北区社会福祉協議会 第1層 生活支援コーディネーター

令和4年度のテーマについて

「その人らしい地域とのつながりを見つけよう！」

我がこと・丸ごとの地域づくり・包括的な支援体制の整備・地域共生社会の実現といった意味がテーマに含まれている。

滝野川圏域各あんしんセンターで
開催した「地域ケア個別会議」か
ら課題を抽出。



介護保険等サービスの是非に問
わず地域とのつながりが薄いこと
にクローズアップ。



設定内容について

- ・地域で自主的に見守り活動されている2事例を紹介。
- ・その後グループワークにわかれテーマに沿った意見交換、交流の場を設定。
地域の見守りや自分たちができそうな「つながり」のヒントや気づき・地域のことを知るきっかけ作りを目的とした。

＜参加団体＞フォーマル、インフォーマルの団体(活動されている参加者とこれから活動を考えている伸びしろのある参加者やバランスを考慮)シニアクラブ、町会・自治会、自主グループ、薬局、手話の会、障害施設、介護保険関係者等、34名が出席。

事例発表1

配食弁当で地域の見守り！

へいじ屋さん



今日も町内会を走りお弁当と一緒に愛情もお届けしています

注文で食べやすい形状や内容の変更も可能です！

事例発表2

商店街での緩やかな居場所づくり



滝野川7丁目の市場通り商店街

商店街とスーパーが共存している素晴らしい地域です。
一緒にイベントをおこなったり
地域貢献されています



乾物屋さん:一つの椅子を店先に出すことで地域の人達と話し合えるよりどころになっています



薬局:処方箋の受け取りだけでなくお年寄りが気軽に来て薬局の先生とお話されています

グループワーク 意見交換・情報提供

- 「こんなことしてみたいな・あったらいいな」ということ
- それはどんな風につながりたいですか？
- どうすればつながることが出来ますか？



各グループ話し合った内容を発表



今後、地域の見守りやつながりについて
「あったらいいな」と思うこと
「自分たちでもできそうなこと」

- ・日中ぶらっと来れて100円くらいでお茶が飲めるようなところがもっと地域に増えたらいい。公園や、施設のような場所が開放できると良い。
- ・認知症の症状があってもそこに行けば作業ができ、その人に合った仕事ができる場所があれば良い。
 - ・道路横に椅子があれば高齢者は助かる。⇒ 連絡会后、実際の椅子寄付の声がありました。
- ・子供食堂の中に高齢者の方が関わったり、放課後サポートにも入って頂いたり、元気な高齢者のパワーを使い子供とのつながりに繋げて役に立てると良い。
- ・高齢者、障害者の方が食事を摂りやすい場所が地域があれば良いと思う。
- ・フレイル予防や健康維持のため、地域に健康相談の場があるといい。
- ・マンションについて
 - 住んでいる方がわからず、見守りだけでなく災害時など助けあえるといい。
 - 逆にマンション住民の立場から、自治会とつながる方法を知りたい。

アンケート結果

- 地域活動されている方の生の声が聞けて良かった。
- こういう取り組みが地域のつながりを作っていくのだと思った。
- 聞こえない方も高齢化がすすんでおり、より孤立している。(手話サークルより)
- 障害に特化した連絡会への参加はしているが今回はメンバーが幅広く新鮮かつ勉強になった、等。

他、「認知症になっても働ける場所作り」「手話の普及」等の課題も出て参りました。

包括ケア連絡会で取り上げてほしいテーマ

- ひきこもりの問題。
- 居場所づくりについての議論がもっと具体的になるとよい。
- 多世代多様なつながりで地域を創ること。
- 防災とのつながり、等。

まとめとして

今回は地域の住民の方や公的サービス事業所含め様々な分野で活躍されている方々に参加していただきました。

グループワークではお互いの取り組みを知る良い機会にもなったと感じます。

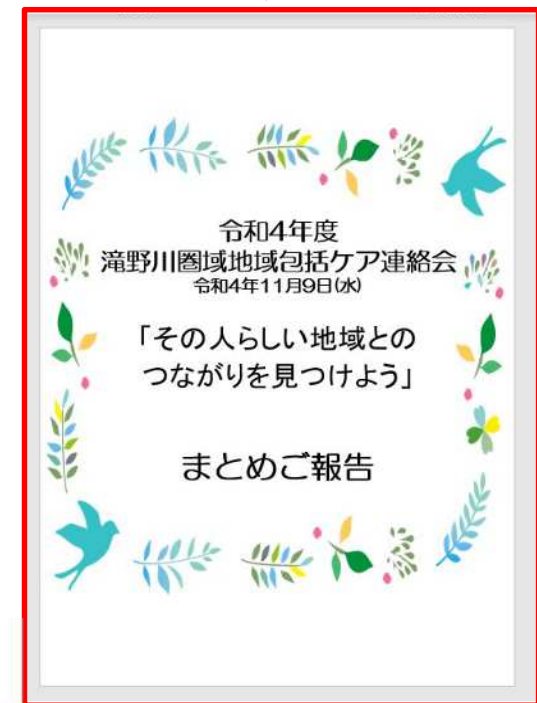
「へいじ屋さん」や「乾物屋さん」「薬局」のように普段から地域との交流の場を設けている方々がたくさんいることも交流の中でわかりました。

また、つながりをどこで求めたらいいか「場所」の問題も大きな課題となっております。

住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らせる「地域包括ケア」を推進していくために、どのようにしたらその人らしい地域とのつながりを広げることができるのか・・・？今回の内容を今後に生かし、地域の方々と一緒に作りあげていければと思います。



「連絡会のまとめ報告書」を作成し参加者へ配布しました。



令和4年度 第1層生活支援コーディネーター活動報告

1. 生活支援コーディネーターに対するヒアリングと課題への支援

今年度も2層コーディネーターが把握している地域特性や課題、取り組み状況等を再確認することを目的に以下の内容の聞き取りを行い、それぞれ回答に対しての1層コーディネーターから見た課題を整理した。ヒアリングを踏まえ、2層の後方支援として伴走する活動を行った。

	2層のとらえている課題	1層の支援の方向	今年度の活動
1	長引くコロナ禍の影響で地域活動が止まったり、外出機会が減ってしまった高齢者へのアプローチ方法	<ul style="list-style-type: none"> ・以前の活動を再開するという発想だけではなく、コロナ禍でもできる活動を助言 ・出張してイベント開催をすることにより、再開のきっかけづくりの支援 ・他エリアの活動紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園体操、散歩活動など屋外活動の紹介（滝野川はくちょう・赤北等） ・ぷらっとほーむ・PT派遣事業をツールに協働でイベント開催（新町光陽苑等）
2	活動の少ないエリアへのアプローチ方法	<ul style="list-style-type: none"> ・1層も同行訪問することにより、アプローチ方法を一緒に探る ・介入のきっかけづくりとして共同でイベント開催の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・PT派遣事業をツールにした講座の開催（飛鳥晴山苑・滝野川はくちょう） ・同行訪問やネットワーク会議の開催支援（豊島等）
3	地域の新たな担い手の発掘方法	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな社会資源や学校とのつながり ・打合せ会の同席・後方支援 ・ささえあい団体の紹介 ・新たな担い手発掘のための研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・順天中学・高校とのマッチングからスマホサロンへ（十条台） ・北桜高校とのつながり（西が丘園） ・赤羽圏域地域包括ケア連絡会「学生と地域のつながりプロジェクト」後方支援 ・しもぞうハウス利用団体のつながり（みずべの苑）・・・等
4	コーディネーター業務の事務作業について	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の事務作業・報告書についての確認 ・提出している報告書について区との意見交換 ・単なる事務縮小ではなく、業務見える化につながるような書式の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・区との定期的な意見交換会の開催 ・報告書についての意見交換やアンケートの実施

2. 生活支援コーディネーターに対する研修などの実施

北区全高齢者実態把握調査結果により、高齢男性のフレイルの割合や社会的孤立の状態にある人の割合について、あらためて地域課題として認識をした。

多くの2層コーディネーターはその問題にアプローチしサロンや体操グループに声掛けをしているものの、地域の集まりによく参加する女性に比べ、男性は圧倒的に参加が少ない。「目的がないと行かない」「時間に縛られるのは嫌」「シャイなので自分からは参加しない」等の男性ならではの特性により、男性主体の居場所づくりに苦労している悩みを共有。「男性主体の居場所づくり」について、実際に行っている方々の事例発表も含め研修会を開催した。研修の振り返りワークでは、それぞれのエリアで「男性に対してのアプローチ」企画案を作成。

令和5年度は、1層コーディネーターでも男性の担い手づくりの講演会を実施し、それを小地域に流していけるような連動した企画に着手していく予定。

3. 生活支援コーディネーターの活動目標の共有と自己評価の推進

2層コーディネーターの活動目標や計画が明文化されておらず、成果の見える化がしにくい状況にあることを受け、令和3年度に「自己評価チェック票」を作成。令和4年度は、そのチェック票をもとに1層と2層のコーディネーターで目標と計画を共有し、目標達成に向けた進捗管理やサポートを行った。上半期終了後は中間報告会として、2層コーディネーター同士でグループワークを行い活動の見える化と振り返りを行った。進捗状況についてシートを活用して報告し意見交換を行うことにより、活動上の悩みや活動のヒントを共有することができた。

4. 協議の場の立ち上げ・運営支援

正式な会議体としての協議体の設置にこだわらず、住民が地域課題を理解し、課題意識を醸成する柔軟な「協議の場」作りへの、ステップを踏んだアプローチ支援を行った。

ステップ	内容	今年度の動き事例
1	メンバーとの出会い・連携 (社会資源開拓)	<ul style="list-style-type: none"> ・町会自治会・シニアクラブ・民生委員等との連携 ・学校・商店・自主グループ・認知症サポーター・介護予防リーダー・いきいきサポーター・ささえあい団体等との出会い・連携 ・障がい団体・銭湯・子供支援団体など、業種を超えた多様な団体との出会い・連携 …等 ⇒すべてのあんしんセンターで実施
2	地域課題の共有会議・イベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・学生と地域のつながりづくりプロジェクト ・おたがいさまネットワーク会議 ・地域包括ケア連絡会 ・貝塚マルシェ企画 …等 ⇒すべてのあんしんセンターで実施
3	継続的な協議の場の立ち上げ (準備会議含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・志茂四あゆみの会立ち上げ ・しげんカフェ協議体(仮)立ち上げ ・comecome 健康一番豊5男子プロジェクト立ち上げ
4	協議の場運営支援	<ul style="list-style-type: none"> ・志茂ジェネ協議会 ・めぐりやを中心とした協議体 ・しゅりるを中心とした協議体 ・かいご無料相談室うちあわせ ・住んで良かった堀船プロジェクト …等 ※このほか2層コーディネーター主催ではないが、メンバーとして参加している協議会も多数あり
5	継続の悩み・今後の方向性の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・赤北さんさんミーティング ・桐ヶ丘協議会

すでに立ち上がり継続している協議の場でも、続けていく過程の中で参加メンバーが変わってしまったり、個人の負担が増えたり、何を目的に行っているのか方向性が分からなくなってしまう事もある。そのような時は、一緒に振り返りを行ったり、今後の運営の仕方をあらためて検討していく過程を伴走しながら一緒に踏むことにより、継続可能な協議体の立て直していく支援も行った。

5. その他

小地域地域で展開されている多様な「居場所」の事例

第2回 おたがいさま地域創生会議

～第1層生活支援コーディネーター活動報告～



令和4年度 生活支援コーディネーターの活動報告

1 生活支援コーディネーターに対するヒアリングの実施と課題への支援

	2層のとらえている課題	1層の支援の方向	2層の今年度の活動例
①	長引くコロナ禍の影響で地域活動が止まってしまったり、外出機会がなくなってしまった高齢者へのアプローチの必要性	<ul style="list-style-type: none">・ 以前と同じ活動を再開するという発想だけではなく、コロナ禍でもできる活動を助言・ 出張してイベント開催をすることにより、再開のきっかけづくりの支援・ 他エリアの活動紹介・見学調整	<ul style="list-style-type: none">・ 公園体操、散歩活動など屋外活動の紹介・ ぷらっとほーむで行っている出張訪問やご近所体操の利用を働きかける・ PT派遣事業をツールに協働でイベント開催・ 園芸サロンの実施

①コロナ禍で止まってしまったサロンや地域活動へのアプローチ
→各エリアで行っている屋外活動の様子



豊島五丁目では体操だけでなく
盆踊もやっていますよ！



生活支援コーディネーターが立ち上げにかかわっている屋外の活動の場

公園体操・ウォーキングの会の数
園芸サロンの数

13か所
3か所

1 生活支援コーディネーターに対するヒアリングの実施と課題への支援

	2層のとらえている課題	1層の支援の方向	今年度の活動
②	活動の少ないエリアへのアプローチ方法	<ul style="list-style-type: none">・ 1層も同行訪問することにより、アプローチ方法を一緒に探る・ 介入のきっかけづくりとして共同でイベント開催の支援	<ul style="list-style-type: none">・ PT派遣事業をツールにした講座の開催・ 同行訪問やネットワーク会議の開催支援

②活動の少ないエリアへのアプローチ



集会所がない町会では
区の施設を借りて・・・

小さい集会所では、人数を制限しながら
2回転で同じ講座を開催



1 生活支援コーディネーターに対するヒアリングの実施と課題への支援

	2層のとらえている課題	1層の支援の方向	今年度の活動
③	地域の新たな担い手の発掘したい	<ul style="list-style-type: none">• 新たな社会資源や学校とのつなぎ• 打合せ会の同席・後方支援• ささえあい団体の紹介• 新たな担い手発掘のヒントとなるような研修会の開催	<ul style="list-style-type: none">• 順天中学・高校とのマッチングからスマホサロンへ• 北桜高校とのつなぎ• 赤羽圏域地域包括ケア連絡会「学生と地域のつながりプロジェクト」後方支援• しもぞうハウス利用団体交流会の実施• 「男性主体の居場所づくり」研修会の開催

2 生活支援コーディネーターに対する研修の実施

(北区全高齢者実態把握調査データより)

- ・社会的孤立状態にある人の割合が、女性に比べ男性がかなり高い(北区全域 女性 35.8% 男性**57.5%**)

(2層生活支援コーディネーターの声より)

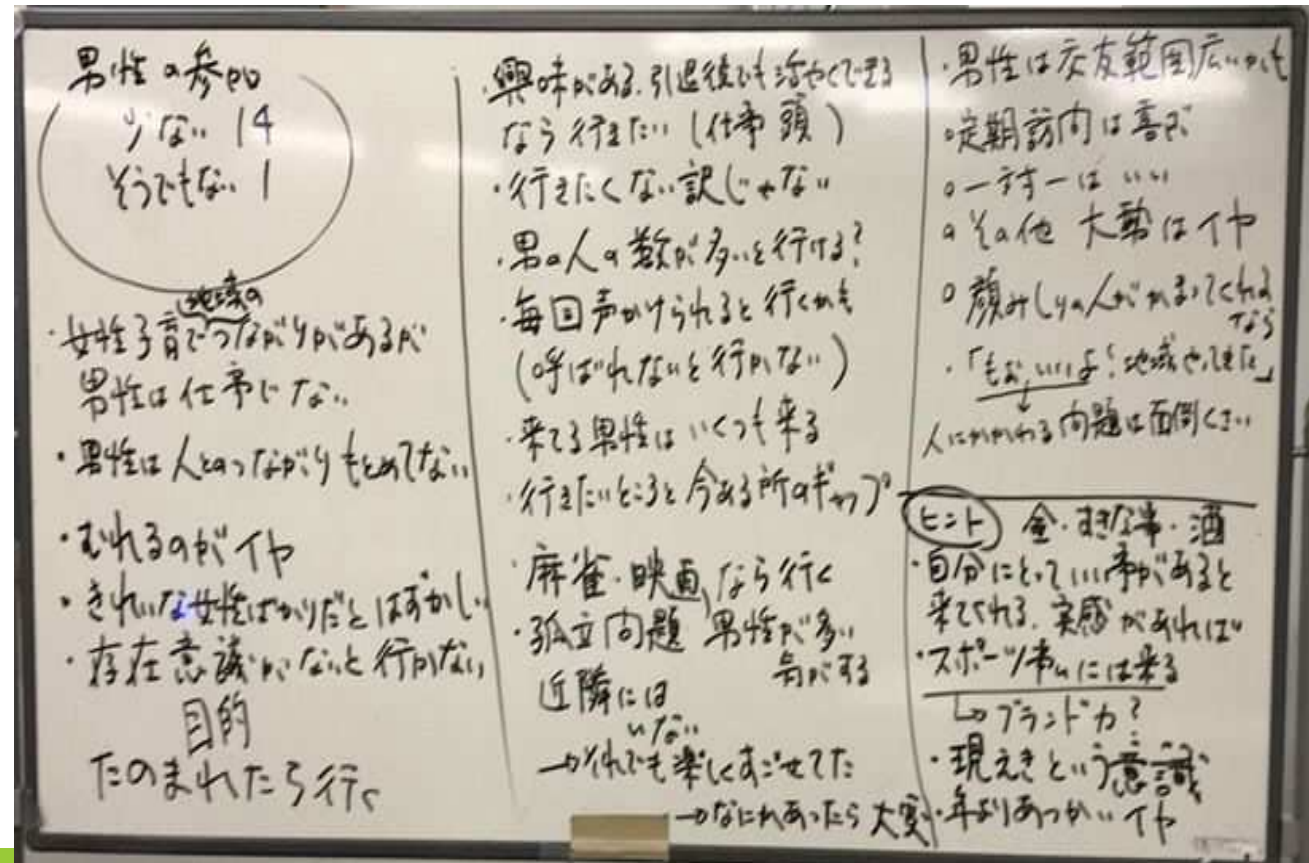
- ・地域で行っているサロンや地域活動も、圧倒的に女性の参加が多い
- ・男性に声掛けをしてもなかなか参加してくれない



「男性主体の居場所づくりについて」の研修を開催



令和5年度 高齢男性対象の講座開催を計画中!



3 自己評価チェック票の導入

PLAN(計画)

DO(行動)

CHECK(評価)

ACTION(改善)

記入日 年 月

(1) 年度活動予定に関する自己評価

前年度の活動報告書に記載された課題	今年度の活動予定	取り組みの状況 (重点的な取り組みは◎)	細目評価	評価	次期にむけてのコメント (課題や方針など)

評価 A) 期待以上の成果が得られた B) 期待に近い成果が得られた C) 準備・調整・取り組み中もしくは期待した成果得られずに終了 D) 取り組みに至らずもしくは取り組み中止 (計画変更含む)

3 自己評価チェック票の導入

(2) 生活支援コーディネーターの役割に関する自己評価

項目	細項目	取り組み状況（重点的な取り組みは◎）	細目評価	評価	次期にむけてのコメント（課題や方針など）
(A) 資源開発	①地域に不足するサービスの創出				
	②サービスの担い手養成（関係機関との連携含む）				
	③元気高齢者などが担い手として活躍する場の確保				
	④既存の地域資源の整理・確認				
	⑤その他	・			
(B) ネットワーク構築	①関係者間の情報共有	・			
	②サービス提供主体間の連携体制づくり	・			
	③その他	・			
(C) ニーズと取り組みのマッチング	①地域の支援ニーズとサービス提供主体とのマッチング	・			
	②その他	・			
(D) その他		・			

評価 A) 期待以上の成果が得られた B) 期待に近い成果が得られた C) 準備・調整・取り組み中もしくは期待した成果得られず終了 D) 取り組みに至らずもしくは取り組み中止

4 多様な協議の場づくり支援

ステップ	内容	今年度の動き事例
1	メンバーとの出会い・連携 (社会資源開拓)	<ul style="list-style-type: none"> ・町会自治会・シニアクラブ・民生委員等との連携 ・学校・商店・自主グループ・認知症サポーター・介護予防リーダー・いきいきサポーター・ささえあい団体等との出会い・連携 ・障がい団体・銭湯・子供支援団体など、業種を超えた多様な団体との出会い・連携 …等 ⇒すべてのあんしんセンターで実施
2	地域課題の共有会議・イベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・学生と地域のつながりづくりプロジェクト ・おたがいさまネットワーク会議 ・地域包括ケア連絡会 ・貝塚マルシェ企画 …等 ⇒すべてのあんしんセンターで実施
3	継続的な協議の場の立ち上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・志茂四あゆみの会立ち上げ ・しげんカフェ協議体(仮)立ち上げ ・come come 健康一番豊5男子プロジェクト …等
4	協議の場運営支援	<ul style="list-style-type: none"> ・志茂ジェネ協議会 ・めぐりやを中心とした協議体 ・しゅりるを中心とした協議体 ・かいご無料相談室うちあわせ ・住んで良かった堀船プロジェクト …等 ※このほか包括主催ではないがメンバーとして参加している協議会も多数あり
5	継続の悩み・今後の方向性の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・赤北さんさんミーティング ・桐ヶ丘協議会

<話題提供>

地域ケア個別会議でとりあげた事例から
地域包括ケア連絡会のテーマ決めを行う

王子圏域

「地域のつながりの大切さⅢ
～孤立を支えるコツ～」



滝野川圏域

「その人らしい地域とのつながりを見つけよう」

両方の圏域で出てきた意見

- 介護や福祉の専門職の取り組みだけでは「孤立」を防いだり、「見守り」の目を増やすことは出来ない
- 日常的に交流している住民同士のほうこそお互いの変化に気づきやすい。
- 専門職・住民がお互いに顔を合わせ声かけしやすいよう、「**徒歩圏内**」で顔を合わせて話せる場面を増やす必要性

委員の皆様の知っているところで、高齢者が集うのに「この場所使えるのでは？」という所がありませんか？（安価で）

例えば…

- ◆ 空き家や空き店舗
- ◆ 個人宅の広い庭
- ◆ 広い一軒家に一人でお住まいで、「家にたくさんの人に来てほしい」という希望のある方
- ◆ 福祉施設の部屋（使わない日時や曜日があれば…）
- ◆ 公的な施設であまり使っていない場所
- ◆ マンション等集合住宅の集会所や団らん室（住民だけでなく他の地域の方々も参加OK?）